

美しく仕上げる小学生用エプロン教材

加藤祥子 東木場美友* 山田芽萌里*

1. はじめに

愛知県の小学校で現在使われている 2 社『新しい家庭 5・6』¹⁾ (東京書籍)、『わたしたちの家庭科 5・6』²⁾ (開隆堂出版) の教科書には、変形六角形の布 1 枚と市販の紐を使用したエプロンの製作方法が掲載されている。この製作方法から、製作手順や各工程の改良を行い、裁縫知識・技術を補った説明資料を作成した。まち針のとめ方、しつけの仕方を詳しく記載し、負担のかかる部分に補強のために返し縫いを加えた。さらに製作工程の順序を変えたことで個々の身長に合った丈の長さで製作できるようにした。ポケットには額縁折りを取り入れること、紐を通すための部分は布端から布端まで縫いきることによって表からの見栄えを良くした。この説明資料を使用することで、正しい裁縫知識・技術を身に付けながら、見栄えの良い美しいエプロンを製作できると考えている。

2. 小学生のエプロン教材

愛知県では、東京書籍と開隆堂出版の 2 社の家庭科教科書が採用されており、図 1、図 2 に示すエプロンの製作ができるようになっている。



図 1 エプロンの形 東京書籍

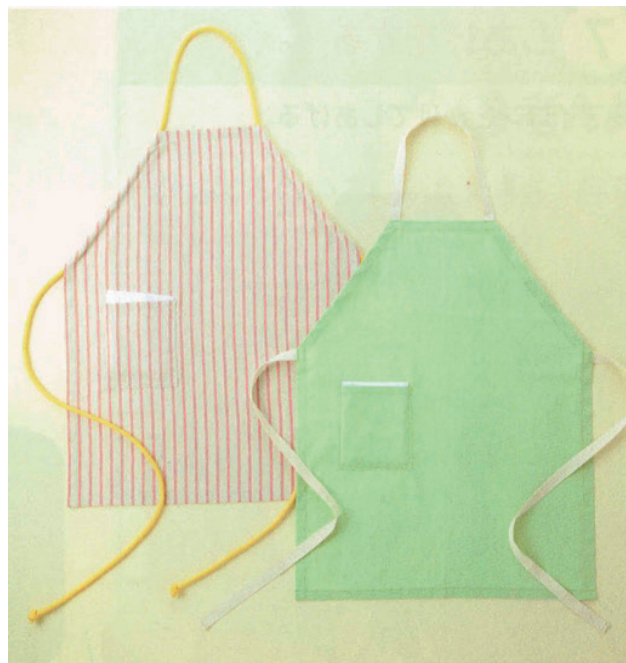


図 2 エプロンの形 開隆堂出版

エプロンの製作手順を「布の裁断」「縫製」「仕上げ」の 3 段階に分け、それぞれに対する改良ポイントを図示する。

*愛知教育大学 教育学部

2.1 教科書のエプロン製作とその改良-布の裁断-

図3が東京書籍、図4が開隆堂出版の説明図の抜粋である。2社の教科書には、裁断された変形六角形の図が示されており開隆堂出版は裁断が終わった状態から始まっている。どちらも一枚の図の中に多くの情報が詰め込まれており、正しく理解するには時間がかかることが分かる。

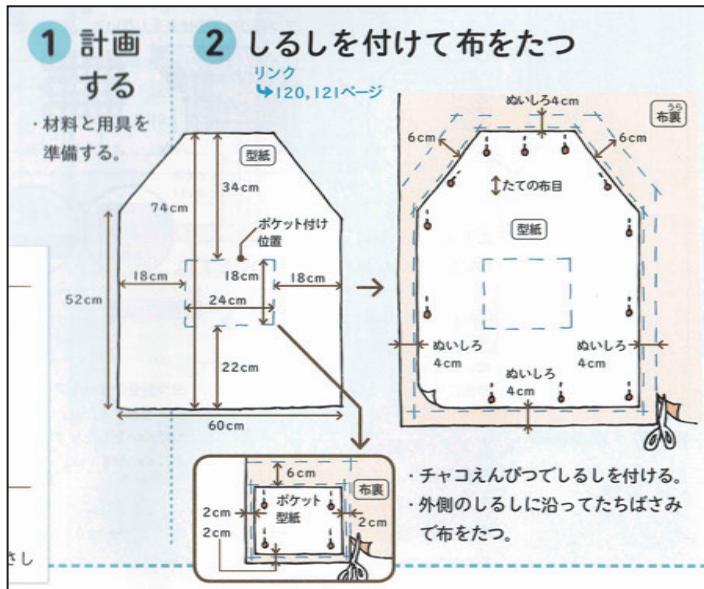


図3 裁断：東京書籍

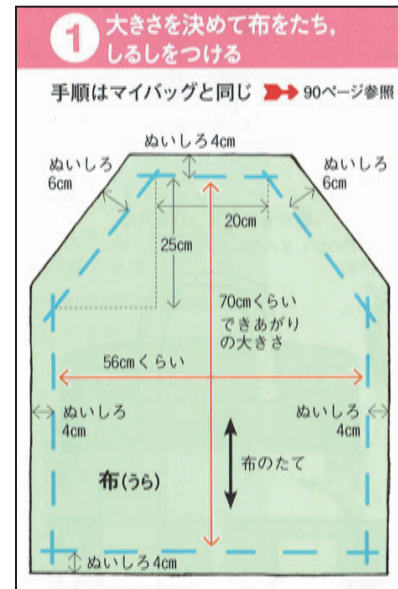


図4 裁断：開隆堂出版

改良版は裁断の手順を「①出来上がりの線を引く」「②縫いしろを引く」「③裁断をする」の3段階に分け、言葉と線の色を対応させて裁断する部分が明確に分かるようにした。

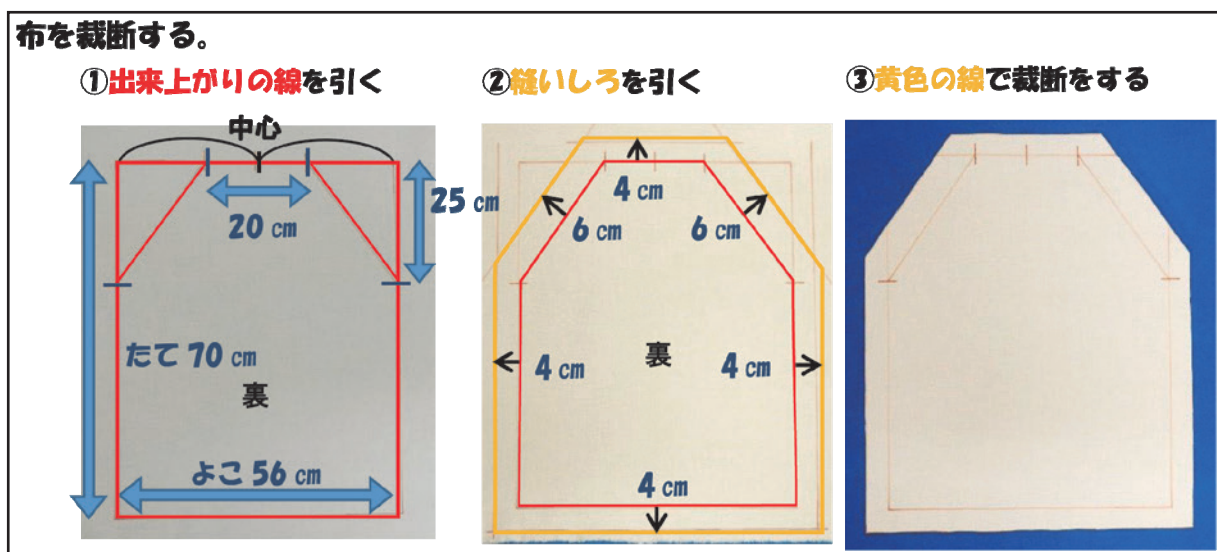


図5 改良版 布を裁断する：改良版

2.2 教科書のエプロン製作とその改良—縫製（上と脇、裾、斜めの部分）—

図6が東京書籍、図7が開隆堂出版の説明図の抜粋である。

教科書には三つ折り縫いする前にまち針でとめること、しつけをすることが記載されている。しかしまち針のとめ方が詳しく記載されておらず、また記載されているが並縫いのしつけはひと針の長さが長いほど布はズレやすい。図8に示す改良版の説明資料ではまち針のとめ方、ずれにくいしつけであるの「一目落とし」の方法を詳しく記載した。

まち針は「とめる順番」、「縫う方向に垂直につける」「小さくすくう」と示し、しつけは「一目落とし」の方法を詳しく示したことで、基本的な縫製知識の定着を図る。

紐を通す斜めの部分の縫い方については、教科書では三つ折りした部分のみを縫っているが、三つ折りを含まない布端から布端まで縫いきる方法へと変更した。表から見た縫い目が端まであり見栄えがして美しい。また紐の入出で負担がかかりやすい三つ折り部分の両端は返し縫いをすることも示した。

三つ折り縫いする工程の順番については、教科書では順に「上と脇」、「裾」、「ななめの部分」であったが「上と脇」、「ななめの部分」、「裾」の順に変更することでひもを通して着装し、個々の身長に合わせて丈の長さを調節できるようにした。

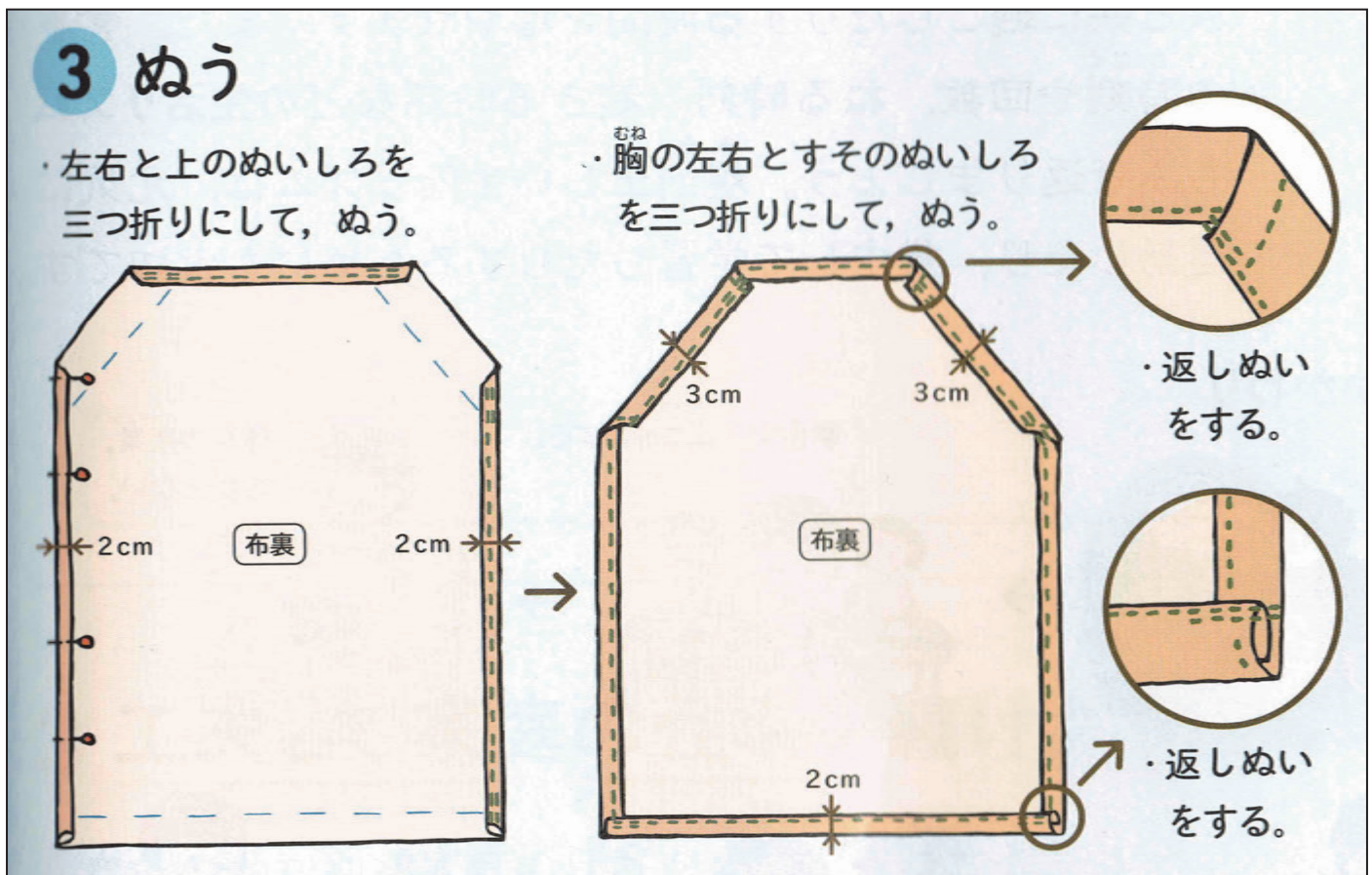


図6 縫製（上と脇、裾、斜めの部分）：東京書籍

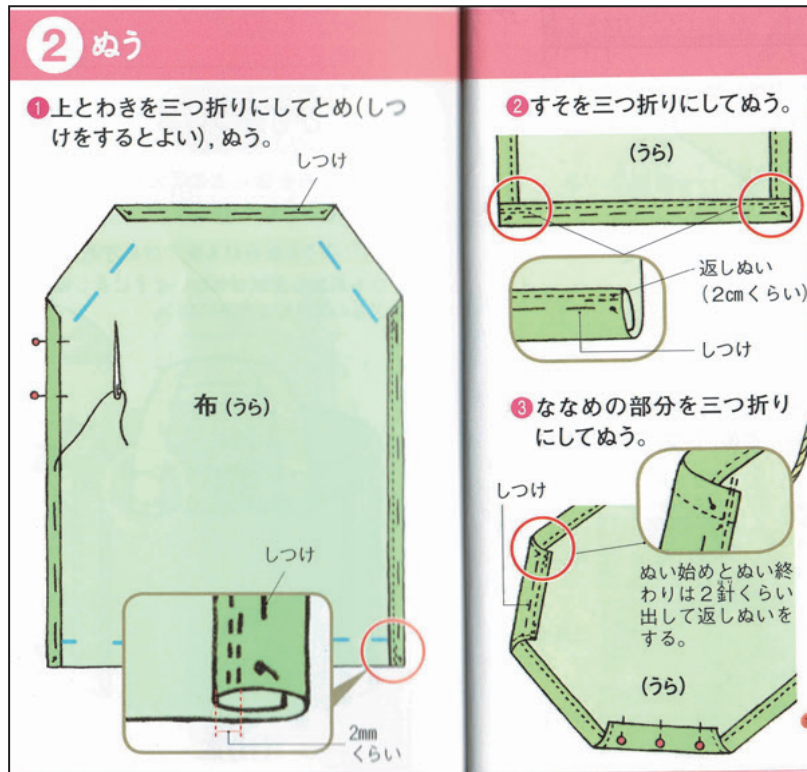


図7 縫製(上と脇、裾、斜めの部分): 開隆堂出版

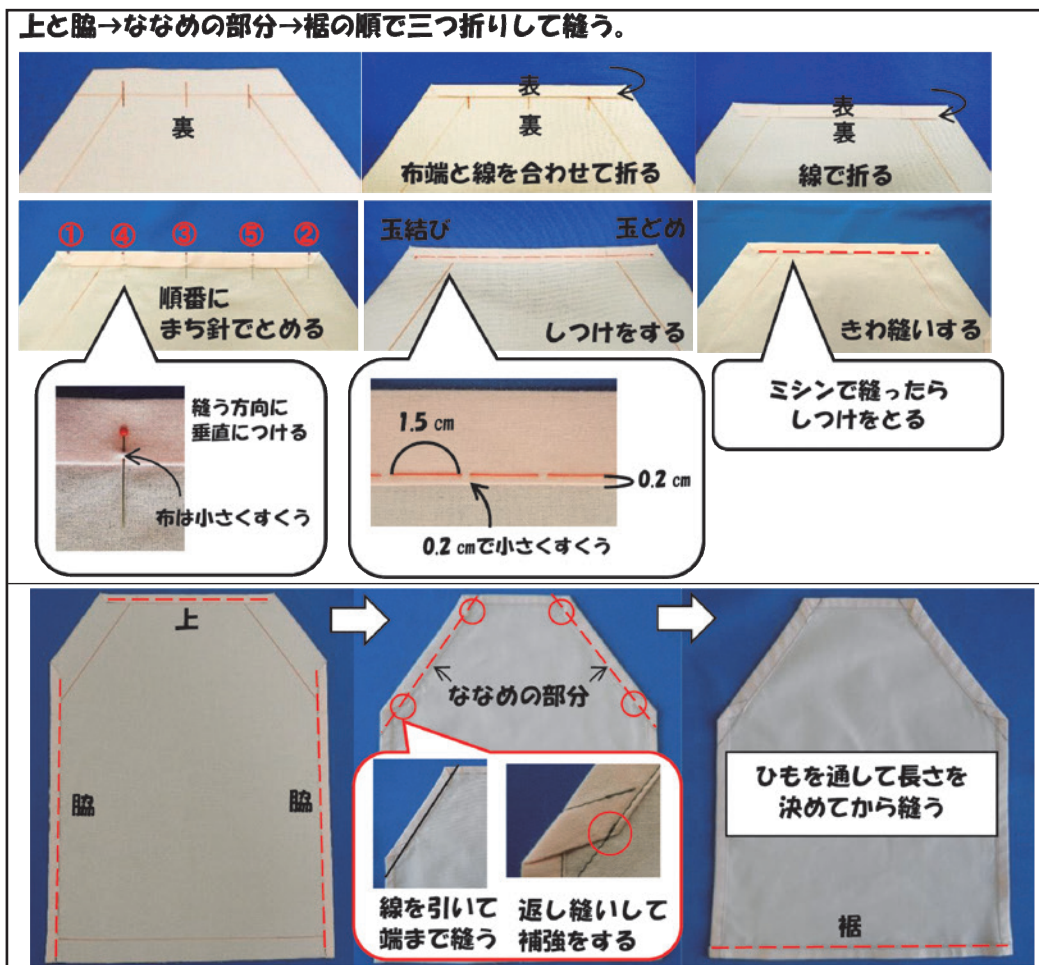


図8 縫製(上と脇、斜めの部分、裾を三つ折りにして縫う): 改良版

2.3 教科書のエプロン製作とその改良-縫製（仕上げ・紐を通す）-

図9は東京書籍、図10は開隆堂出版の仕上げである。

東京書籍での製作順はポケットを付けてから、紐を通してある。改良版の説明資料では紐を通し、着装してからポケットを付けることで、個々の身長に合わせた使いやすい位置に決めることができるようにした。

図11は改良図である。両教科書では紐を通し終えた図のみが記載されているが、紐を通してある写真も加えた。



図9 仕上げ：東京書籍



図10 しあげ：開隆堂出版

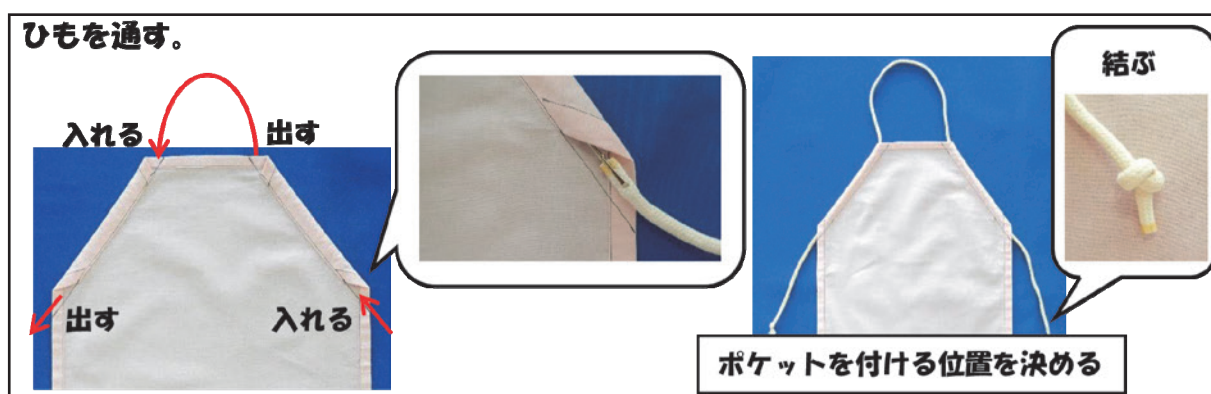


図11 紐を通す：改良版

2.4 教科書のエプロン製作とその改良-縫製（ポケットをつける）-

ポケットの付け方については、開隆堂出版では図 12 に示すように「返し縫い」、「三角縫い」、「平行縫い」で行う方法が示されていたが、東京書籍には詳しい記載はなかった。（図 13）

図 14 に示す改良版の説明資料では小学生でも取り組みやすいように平行縫いで行う方法を示すこととした。

また、ポケット口の縫いしろを 4 cm から 6 cm にして出来上がり幅を広げ、安定した使い心地となるようにした。脇と底の角の折り方を二つ折りから額縁折りに変更したことで、出来栄を良くした。ポケット口の脇の縫い方は手を入れたときの負担が集中するポイントに返し縫いを施すこと、角縫いは針目を調節して直角に縫うことを記載した。

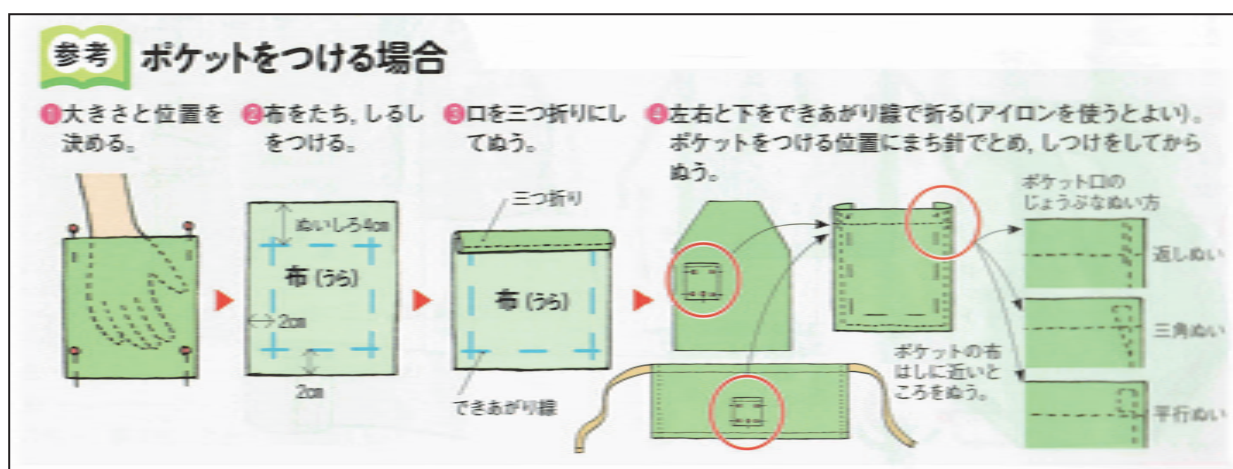


図 12 ポケットをつける：開隆堂出版

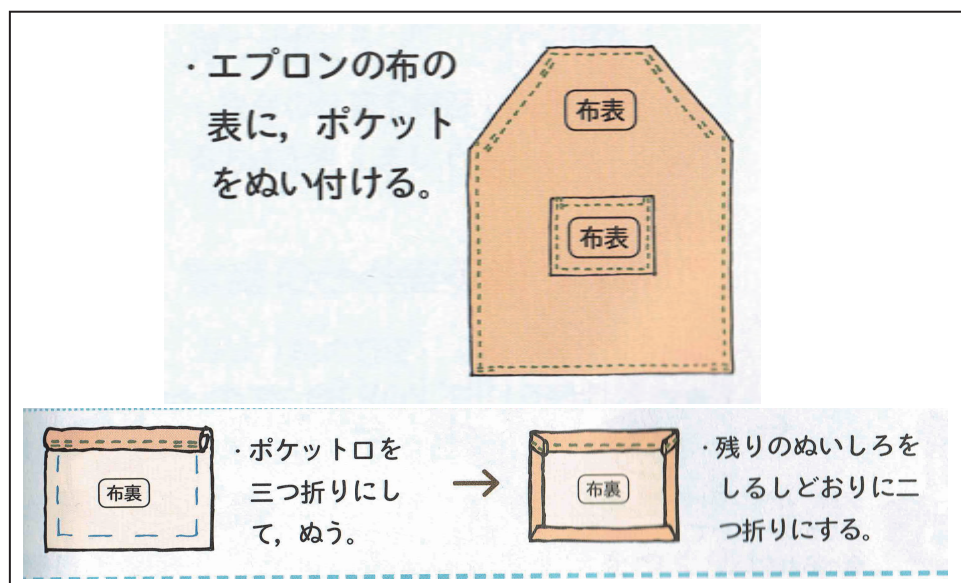
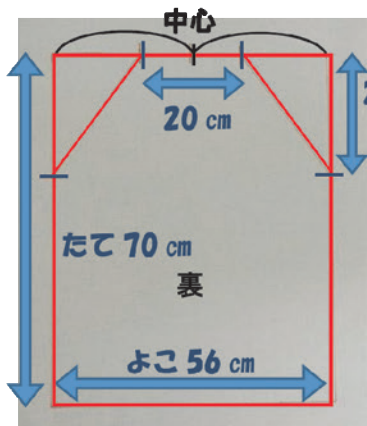


図 13 ポケットをつける：東京書籍

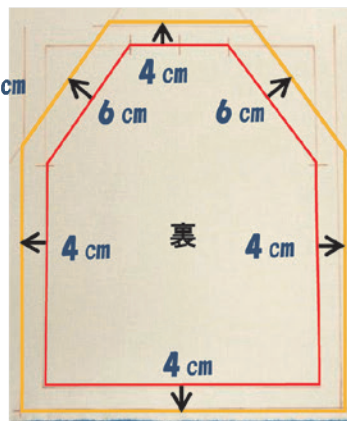
材料>>綿の布(たて80cm、よこ70cm)、ポケットの布(たて23cm、よこ20cm)
ミシン糸、しつけ糸、丸ひも2m50cm

布を裁断する。

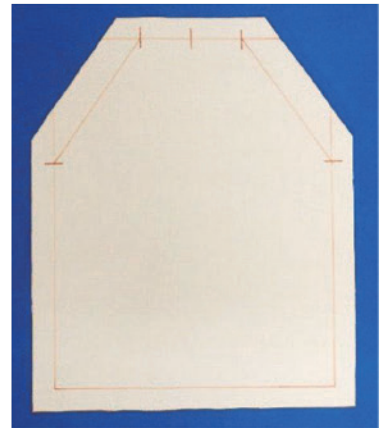
①出来上がりの線を引く



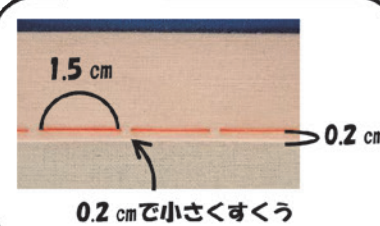
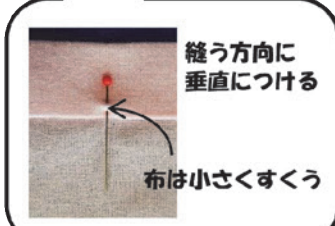
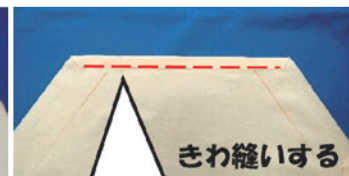
②縫いしろを引く



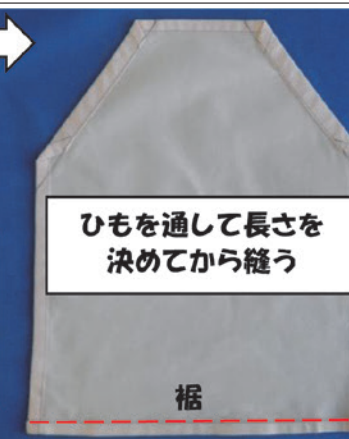
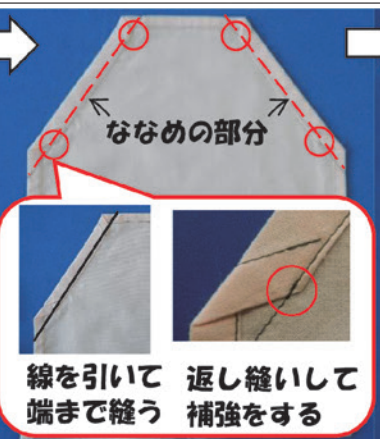
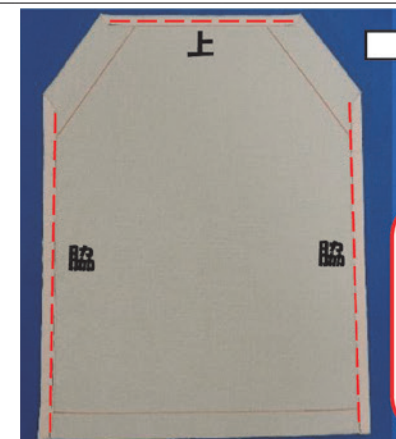
③黄色の線で裁断をする



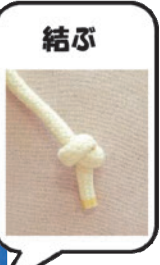
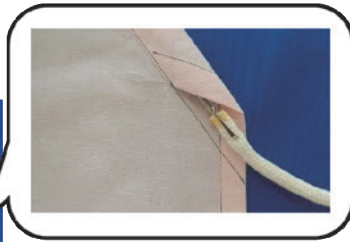
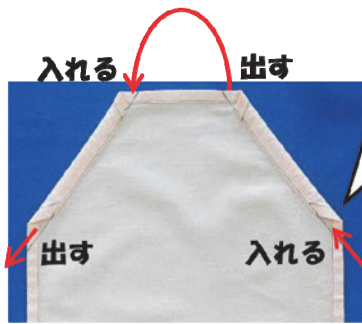
上と脇→ななめの部分→裾の順で三つ折りして縫う。



ミシンで縫ったらしつけをとる



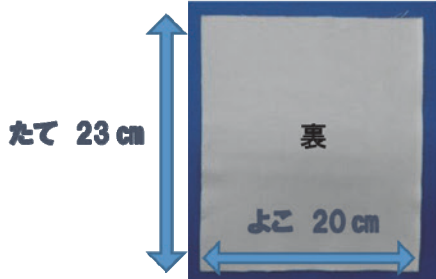
ひもを通す。



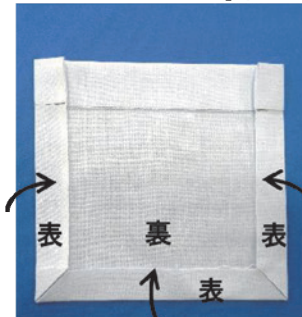
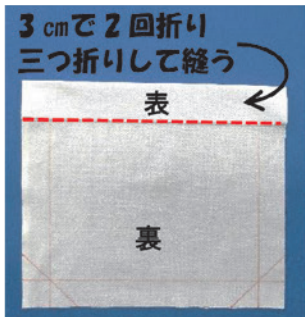
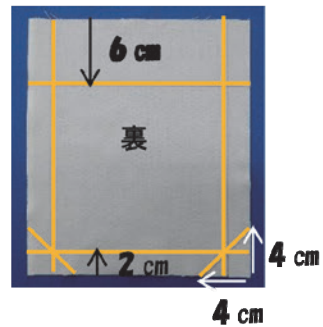
ポケットを付ける位置を決める

ポケットを本体に付ける。

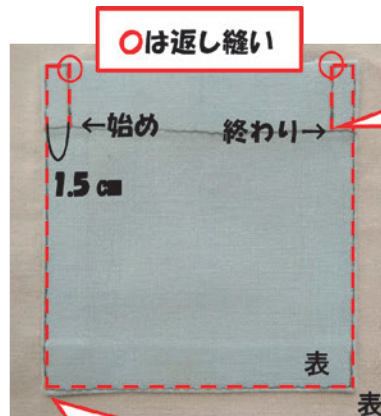
たて 23 cm、よこ 20 cm で裁断をする



線を引く



ミシンで縫う



三つ折り縫いした線まで縫う

針目を調節して直角に縫う



5. 終わりに

小学生用のエプロン教材は縦 90 cm、横 70 cm以内で取れる変形六角形の布 1 枚と 2 m50 cmの長い紐 1 本で構成されている。理解しやすいが、単純なだけに綺麗に仕上げることは難しい作品である。大きさもこれまで製作してきた小物とは違い、体を覆う大きなサイズである。またエプロンを製作する高学年になると身長の違いも出現し、丈やポケットの位置など体型に合わせることも使いやすさの重要なポイントとなる。今後の裁縫の基礎となるよう技術を身に付けながら見栄えのする使いやすい美しいエプロン製作へと繋げたい。2 ページの説明資料としたことで、時間ごとに配布して使うことや全体を見通せるよう大きな 1 枚として配布することも可能である。一人でも多くの子ども達に使いやすく美しいエプロンを作ってもらい、楽しく被服の基礎を学んで欲しい。

引用文献

- 1) 文部科学省検定教科書. (2011b) .新しい家庭 5・6.東京書籍
- 2) 文部科学省検定教科書. (2011a) .わたしたちの家庭科 5・6.開隆堂